

令和5年度 第1回秋田県埋蔵文化財センター運営協議会
【概要・要旨】

令和5年度 秋田県埋蔵文化財センター運営協議会概要

名 称	秋田県埋蔵文化財センター運営協議会
設置根拠	秋田県埋蔵文化財センター運営協議会規定
設置目的	秋田埋蔵文化財センターの適正な運営と円滑な事業の推進を図るため
委員構成	委員長1名 副委員長1名 委員8名 計10名（うち女性委員2名） ※ 定数10名以内
委員任期	2年間：令和5年4月1日から令和7年3月31日まで
第1回	令和5年6月15日 14:00～15:55 埋蔵文化財センター第1研修室

令和5年度 第1回秋田県埋蔵文化財センター一運営協議会 要旨

1 日 時：令和5年6月15日(木) 14:00～15:55

2 場 所：秋田県埋蔵文化財センター 第1研修室

3 出席者

委員：8名

小松 正夫	委員長	(前秋田考古学協会会長)
栗林 靖雄	副委員長	(美郷町立六郷小学校校長)
北野 悟	委員	(仙北地域振興局総務企画部地域企画課課長)
小坂 靖尚	委員	(横手市立浅舞小学校校長)
佐々木淳一	委員	(柵の案内人 大仙市ほたるの会会員)
星野 友実	委員	(大仙市立高梨小学校校長)
武藤 浩紀	委員	(美郷町立千畑小学校校長)
渡部 育子	委員	(国立大学法人秋田大学名誉教授)

事務局：7名

大泉 真	副所長
鈴木菜穂子	副主幹(兼)総務班長(兼 払田柵跡調査事務所副主幹)
吉川耕太郎	副主幹(兼)調査班長
村上 義直	主任文化財専門員(兼)中央調査班長
新海 和広	副主幹(兼)資料管理活用班長
谷地 薫	(兼)文化財主査(本務 払田柵跡調査事務所調査班長)
堀川 昌英	学芸主事

※欠席者：3名

大阪 瑞穂	委員	(南教育事務所仙北出張所所長)
山崎 裕子	委員	(山崎ダイカスト株式会社取締役管理部長)
磯村 亨	所長(兼 払田柵跡調査事務所所長)	

4 協議内容

(1) 令和4年度事業報告

- ① 令和4年度 事業報告(調査関係)
- ② 令和4年度 事業報告(活用・普及関係)
- ③ 令和4年度 各種活用事業別参加者数の推移
- ④ 令和4年度 学校の利用状況
- ⑤ (参考) 令和4年度 払田柵跡調査事務所 調査成果の普及と関連活動

(2) 令和5年度事業計画

- ① 令和5年度 発掘調査・整理、確認調査一覧
- ② 令和5年度 活用普及事業計画
- ③ 令和5年度 払田柵跡調査事務所 事業計画

(3) 本年度の事業等についての提言

5 委員からの御意見・御提言(抜粋)

- ・昨年度の企画コーナー展テーマⅢの内容が非常に良かった。一部は現在も展示しているが、今年度の払田柵跡50年の展示にもつながるので続けてもらいたい。
- ・小学校の職場体験を引き受けていただいてありがたい。セカンドスクールで学んだところが職場としてどのように仕事をしているのか、体験することも価値のあることだと思う。
- ・学術雑誌「日本歴史」に払田柵跡の企画展に関する情報が記載されていなかった。広報活動の一環として掲載すれば全国的にも情報提供になる。専門の方々も来場すると思われるので、是非お願いしたい。
- ・県で取り組んでいるデジタル化の推進に関連し、引き続きYoutube等SNSを活用して活動成果をPRしてほしい。
- ・出前授業では地区の遺跡や出土品の紹介を取り入れるなど、学校に合わせた形で行ってもらいふるさと学習にもなった。展示室を見学して、歴史には時間軸とともに空間軸も必要だと感じた。地名だけでなくどこにあるのか(海岸沿いか山沿いか、平地か川沿いか)、空間軸があれば子どもたちが見たとき気付きになる。
- ・県内で考古学の研究者がそろっているのは埋蔵文化財センターだけなので、研究面も充実してほしい。予算措置をしながら研究紀要も刊行してほしい。企画展ではこれだけの後援団体があるので、県立博物館の他にどのようにここ(現地)に足を運んでもらうかという広報も考えてもらいたい。
- ・自分の地域のことも学ぶことができるということをアピールし、学校利用を近隣だけでなく県南部等に広げていくことができるのではないかと。個人で見学に来た子どもたちに解説や出土品の使い方の体験活動をするのも必要ではないか。興味を持つ子どもたちが来て良かった、わかったと思える場にしてほしい。
- ・当時の住居を図示していたが、食も含め実体験できれば面白い。
- ・払田柵とは何か、これが解明できれば日本の歴史が変わると思って日頃から誇りを持ってガイドをしている。これからもよろしくをお願いしたい。
- ・身近に歴史に触れられる機会を提供してくれている。展示から新しい発見をし、さらに解説を聞いて、質問を繰り返しながらコミュニケーションができたりするともっと調べてみたいと思うことにつながると感じた。大曲仙北の社会科研究会にとって非常に大切な施設になっている。
- ・発掘調査の量(数)や活用事業の量(中味)でたくさんのことをこなしていることに敬意を表したい。展示室や発掘調査現場を見学することは非常に大切である。以前利用した子どもたちが秋田県の文化財に関わる仕事に就いて活躍している。センターで行っている事業には非常に大きな意味がある。

6 センターより(抜粋):

- ・当センターが地域から期待をいただいていることに改めて気づかされ、気を引き締めている。それぞれの視点から貴重な御意見をいただきたいへんありがたい。宿題も多くあり、こなせないのではないかと心配だが、できることをいっぺんでも解決して前へ進んでいきたい。

また、ぜひ県立博物館で行われる企画展へもお運びいただきたい。第2回運営協議会は令和6年1月末から2月に予定している。近くになったら御案内する。本日はおいでいただき感謝申し上げます。

